

【声明】

西田昌司参議院議員（自民党所属）の沖縄 ひめゆりの塔への暴言は、 医療・介護従事者として絶対に容認できないものであり、強く抗議する

2025年5月8日
京都民主医療機関連合会
会 長 中川 洋寿

神道政治連盟沖縄県本部と日本会議沖縄県本部などで行う実行委員会が、2025年5月3日（憲法記念日）に沖縄県那覇市内で主催したシンポジウムで、京都選挙区選出の西田昌司参議院議員が過去に見学した沖縄県糸満市のひめゆりの塔の展示内容を「あの展示を見ていると、要するに日本軍がどんどん入ってきて、ひめゆり隊が死ぬことになっちゃったと。そして、アメリカが入ってきて、沖縄が解放されたと」「亡くなった方々は救われませんよ。本当に。だから、歴史を書き換えられると、こういうことになっちゃうわけですね。」「われわれ京都の中でも、共産党が非常に強い地域ですけど、ここまで間違った歴史教育はしていません。沖縄の場合には、地上戦の解釈を含めて、かなりむちゃくちゃな教育のされ方をしてますよね。」「自分たちが納得できる歴史を作らないといけないと思います。それをやらないと、日本は独立できないですよ。」などと述べたと地元紙、沖縄タイムス（2025年5月4日付）が報道している。

これらの報道を受け、2025年5月8日付の京都新聞は一面トップで「自民・西田氏発言、撤回せず」と伝えている。ひめゆり平和祈念資料館によると、発言内容のような説明は塔の周りや資料館の展示に存在しないと、館長が「体験者の思いを踏みにじり、冒瀆する発言だ」と述べ、玉城デニー沖縄県知事も「沖縄戦の実相をゆがめる由々しき発言だ。認識錯誤も甚だしい」と批判している。

太平洋戦争の末期、敗戦が目に見えた状況であるにもかかわらず、日本軍が「本土決戦」準備の時間稼ぎのためにアメリカ軍を沖縄に足止めにし、いわば沖縄を本土決戦のための「捨て石」とする作戦をとったこと、その作戦のために政府・日本軍が沖縄県の住民（民間人）を地上戦に「根こそぎ動員」したこと、その中で男女合わせて2000人以上の学生が戦争に動員されたこと、女子学生が「ひめゆり学徒隊」などとして、500人以上が日本軍の負傷兵などの看護に従事させるために動員され、202名の若いいのちが犠牲になったことは動かすことのできない歴史的な事実である。

いのちの尊厳と人権を守るために、日夜医療・介護に従事している私たち京都民医連は、あらゆる戦争を許さないとして「非戦」を運動のスローガンに掲げて平和を求め訴えている。ひめゆりの塔、ひめゆり平和祈念資料館の展示は、女子学生たちの沖縄戦前の学校生活、沖縄陸軍病院への動員の状況、生き残った生徒たちの証言を展示し、沖縄戦の実相と平和の尊さを伝えるとともに亡くなった生徒・教員の鎮魂を意図したものであり、京都民医連も職員の平和学習の一環として現地を訪ね、亡くなった方々への哀悼と平和でこそ医療・介護ができると決意を新たにしている。

西田昌司参議院議員の発言は、大日本帝国が沖縄県の住民に多大な犠牲を強いた沖縄戦の歴史の事実に向き合わず、劣悪な環境のなかでいのちをかけて負傷者の看護に従事した学徒隊への冒瀆だけでなく、沖縄県民に対する卑劣な暴言であり、到底容認できない。また、西田昌司参議院議員の今回の発言こそ「歴史を意図的に歪める」歴史修正主義と言うべきものであり、日本を再び戦争の惨禍に巻き込む可能性が高まりかねず、絶対に許せない。

京都民医連は、強い怒りとともに西田昌司参議院議員の今般の発言に抗議し、発言の撤回とあわせて、沖縄県民とひめゆり平和祈念館に対しての謝罪を求める。

以上